

2015年度 学校評価報告書 (大阪聖母女学院中学校・高等学校)

学校目標 (園目標)	「世界の人々の心をつなぐ平和の天使」としての心の豊かさ、正義にもとづく正しい判断力、コミュニケーション能力を合わせ持つ女性を育成する。	校長	西村佳也
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々をつなぐためのツールとしての英語力の強化。 ・国際感覚と世界的視野を育む取り組みとして、海外研修や留学、異文化交流の積極的導入。 ・学校行事、クラブ活動、ボランティア活動等を中心としたバイタリティと協同力の育成。 		

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標		年 度 評 価 (2015年3月1日現在)		実 施 日 2016年4月8日		
番号	大目標	重点目標	具体的方策	取組の成果	次年度への課題と改善	
1	建学の精神に基づく教育の徹底	国際的視野の育成と英語運用能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力定着度を知る一つの指標として用いる検定を軸とした、小中高12年間一貫英語教育シラバスの完成。 ・English Hourを2つのレベル設定のもと実施。各レベルに合わせたネイティブ教員(2名が交互に、各レベルの授業を担当する形式)によるプログラムを展開。 ・アメリカ ユタ州3ヶ月(3学期 高校1・2年生希望者参加)の実施。 ・シンガポール研修導入 ・国際ボランティア(第23次タイ隊)の実施。 ・海外留学生1名の受け入れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユタ州3ヶ月留学初年度は11名の参加。事前の英語研修、事後の全生対象プレゼンテーションを実施。英語学習へのモチベーションの高まりが顕著。自主的かつ積極的な学習姿勢が形成されている。諸活動において自分の意見を明確に述べる姿勢が身についている。 ・シンガポール研修へは(全国からの20名募集枠)本校から高校1年生が2名参加。帰国後、研修成果を全校生徒にプレゼンテーションした。 ・タイ隊には在校生8名、卒業生(大学1年生)2名の参加。初めてタイでのホームステイを実施。 ・カナダからの1年留学生が多学年にわたる授業に参加、在校生との文化交流を果たすことができた。異文化圏の人たちとのコミュニケーションが日常的な感覚となり、より深く正確なコミュニケーションをとる手段を各々が工夫する風土が形成されてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・English Hourは前年度の反省点を生かして運営方法を見直した結果、レッスン中の英語使用比率と授業内容の充実度はアップした。TOEFL Juniorテストでのスコアアップにいかにつなげていくか計画を練り直すことが必要。 ・各研修の事後学習を今年度からプレゼンテーション準備と全校生への発表の形で実践。プレゼンテーション技術やスライドの校正はもろろのこと研修成果の発表としての内容充実を図ってきたい。 	<p>学校評価アンケートにおいて、定評観測項目における2014年度と2015年度の比較から、ご意見等いただいた。2015年度の学校評価アンケートの結果によれば、「入学してよかった(入学させてよかった)」という項目で、「そう思う・どちらかといえばそう思う」の割合が、2014年度から若干増加した。「学校生活は楽しく充実している(充実しているようだ)」の項目も同様であり、コースごとのデータにも大きな差は見られなかった。しかし、今回のアンケート結果では、「充実」の内容の分析に踏み込めていない。定評観測項目の小テストや補習、講義への満足度、行事におけるリーダーシップの養成等の項目と合わせて、今年度の注力点に関するアンケート項目の分析を行なったが、明確な「充実」の内容を分析できるにはいたらなかった。教育活動の充実を高めるには、取り組んでいる諸活動一つ一つの持つ教育的意義や目標を全教員で共有し教育効果を高めることが大切。定期テスト等の結果では、補習対象には含まれないが、学力定着度が低い生徒たちへの対応を検討していく必要がある。この層の生徒たちには、「課題を与えてもらって、教えてもらう」といった受身の態度から脱却し、自分で目標を立ててクリアしていく力をつけることが大切だと思われる。「強制されたからできていく」では、伸びていかない。また、伸び率を評価するというアプローチにより、生徒自身が自分の中で進歩した部分を認めていくことも重要。中1、中2の間に、積み上げていく習慣やつまずいたことをすぐに修復する習慣をつけさせたい。行事の事前、事後の担任の声かけにより、達成感や充実感を持つことは大いにある。こういったところで担任の先生の力を発揮していただけたらいい。</p> <p style="font-size: small;">*学校評価アンケート一部抜粋 (上述の内容に関するグラフ) 青:そう思う 赤:どちらかといえばそう思う 緑:どちらかといえばそう思わない 紫:思わない</p>
		日本文化理解の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原流礼法によるマナーの定着 ・中学校1、2年生でのマナー講座の継続実施。 ・和装礼法による日本文化理解と作法の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・和装礼法は高校1年生の各学期定着授業期間に実施。浴衣の着脱、着物(小紋・訪問着等)の着脱を修得。初級マナー検定を受検し、全員合格。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は定着授業期間を設定しないため、和装礼法を学ぶ時間をどのように設定するか検討が必要となる。 ・中学校高学年でも、実習中心の日本文化理解になっている。今後は実習はもろろ。「日本文化」という観点からの理解の深化をはかる必要がある。 	
		宗教教育を基盤に据えた、つながる心・人間力・広い視野を育てる教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪聖母宗教教育カリキュラム(小・中高12年一貫)の構築 ・コミュニケーション・リーダーシップ教育の充実 ・中学校3年生コミュニケーション講座(総合の時間)の実施および充実を図る。 ・中学校2年生での『赤ちゃん先生(赤ちゃん、そのお母さまにグループごとに入っていた、出産・子育て・赤ちゃんとのお付き合い)』を実施。 ・高校生においても、『赤ちゃん先生』を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学校行事の企画、運営を生徒主体で実施。各生徒が年間を通じて複数回リーダーとしての経験を積むことができた。 ・中学校2年生の『赤ちゃん先生』では、自分の存在意義、命の大切さを感じること、両親、家族への尊敬の思いなどの醸成が中心となった。 ・高校での『赤ちゃん先生』では、女性が仕事を続けること、産休・育休制度の活用や意義について、母親となること等、女性の人生という観点からの出産の意味についても考えるキャリア教育としての機会にもつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カトリック教育支援部長、本校宗教担当、大阪聖母学院小学校教頭長との合同会議を開催できず、12年一貫の体系は構築には至っていない。小学校と本校でそれぞれのカリキュラムでの宗教教育を実施しているのが現状であるが、来年度には小中高12年の一貫した宗教教育の流れを構築し、建学の精神に基づく人間教育の土台となる精神の育成を図りたい。 	
		キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・人生設計カリキュラムの充実 ・論理的思考力、熟考力、表現力の養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査最終日ボランティアの実施 ・各種ボランティア活動の実施 ・中学校3年生福祉学習(2,3学期総合の時間)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査最終日ボランティアにはのべ人数で、全校生の約半数に当たる人数が参加。 ・あしなが学生募金、釜ヶ崎の炊き出し実施のほか、ネパール大地震の緊急街頭募金(京阪 香里園駅:生徒会の生徒による呼びかけ)を実施した。 	
2	教育・指導の充実	教職員の指導力、スキルアップにむけた研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修の設定と参加 ・自己点検と評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教研修3回、人権研修1回を実施。授業研究週間を設け、教員の教授スキル向上の研究や授業展開の検討をおこなった。 ・模擬テストや検定等の結果を分析し、学力の定着や向上が果たしているかを適宜確認、年間5回の生徒面談や保護者面談を通じての助言をおこなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教育をはじめとする先進的な取り組みを進めていくにあたって、早急に設備の拡充が必要である。 	
		各教科の指導体制の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間の設定。 ・2017年度からの21世紀型教育導入にむけた準備 ・アクティブラーニング本格導入に向けた教科ごとの研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動・話し合い・考察の要素を、各教科で意識的に取り入れ、アクティブラーニングの本格導入に向けた検討を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中のカリキュラムのスリム化は実現できなかった。2017年度から新体制での教育を開始するにあたり、カリキュラムの再編成を急ピッチで進める必要がある。 	
3	財政の健全化	入学者の安定的確保	<ul style="list-style-type: none"> ・募集活動の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ①中学校入学者の確保 ・学内進学者の確保:女子児童52名中23名。 ・学外進学者の確保:併願受験者増、20名入学。 ②高校入学者の確保 ・学内進学者の確保:56名中50名の内部進学者。 ・学外進学者の確保:受験者数が105名、併願者の戻りが予想以上に少なく33名。 ③中高共通 ・海外女子教育振興財団を通じた情報発信により、帰国生の入学を募った。問い合わせ件数は昨年度より多くなったが、結果的に出願は無かった。 ・聖母カップ(ミニバスケットボールチーム招待、近隣中学校クラブ招待)を実施。前年度までの参加者の中から、中学へ入学者を確保できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学入学者は昨年度比10名減。 ・バスケットボールの聖母カップ開催は、枚方、樟葉近辺で認知されてきた。その際の評判を聞いて、バスケットボール界ではないところにも名前が広がっている。他のクラブにおいても、練習試合等での積極的な交流を通じてクラブ認知度を上げてきたが、今後は拡大方法も可能性をさぐりたい。 ・広報活動に有効なツールの発掘(特にSNS等の有効な利用)が急務。 	
		耐震工事の完了と諸設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震工事の未完成部分の工事 ・B・C棟1、2階(F棟含む) ・B・C棟3階外壁工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・B・C棟1、2階(F棟含む) ・B・C棟3階外壁工事 ・B・C棟1、2階教室の網戸設置の完了 ・生使用ロッカーの全面入れ替え(鍵付) ・体育館のバイク椅子を新しい軽量のものに更新 ・校庭の整備(温室や花壇の整備と樹木の剪定) ・校舎と体育館の床、壁、天井の破損・汚損の補修と給湯設備の点検と整備 ・体育館電灯のLED化と、照明効果を変えるライトの設置 ・大廊下のデジタルサイネージ設置 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末等を利用した授業に対応できる。Wi-Fi環境の整備と、その他ICT環境の充実が急務である。 	
4	環境の整備	保護者会・後援会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会の設立実現。 ・ママさんバレー、プリムローズ(コーラス)活動への協力 ・入試イベントへの保護者会役員の方々の参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・後援会費による、教育備品の購入(デジタルサイネージ、吹奏楽の練習や音楽の授業や吹奏楽部で使用楽器) ・クラブや個人の大会成績等を書いた懸垂幕の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 後援会のより良い運営計画や運営方法の検討、後援会費用の計画的利用にむけて、保護者会・後援会役員の方々と学校関係者との積極的な話し合いの機会を持つ。 	
		同窓会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭、文化祭等での出店。 ・同窓会主催行事への参加(成人の集い・同窓会入会式等)。 ・入試イベントへの卒業生の出演。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間通じて、生徒の各種活動をバックアップいただき、ロイヤルティの醸成や大阪聖母生としての自覚や誇りを持つことにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に卒業を迎える生徒たちに対して、同窓生となることへの意識づけをはかり、同窓会活動の活性化を学校としてサポートしていく必要がある。 	
		地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川六中校区の合同活動(連絡協議会やクリンキャンベンなど)への積極的参加。 ・地域の方々をお招きする行事の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「くらりん聖母」「体育祭」「文化祭」「クリスマスイン聖母」などの行事に近隣の皆様をご招待し、それぞれ前年度より多くの近隣の方のご参加があった。 ・寝屋川市主催の行事(「街歩きツアー」「青年祭」「たなぼた祭り」等)へ積極的に参加。 ・寝屋川市役所をはじめ、近隣の施設や会社、幼稚園や保育園等にご協力いただき生徒の就業体験を実施することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報等を六中校区で共有し、子どもたちの安全を守る取り組みを強化したい。 ・歩道通行時や乗り物の中でのマナーを意識し、通学路で近隣の方々に迷惑をかけることのないよう、また安全に登下校できるよう、生徒への意識啓発を強化したい。 	
5	一体感の醸成	カトリック香里教会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・香里教会のクリスマスイベント等へ、生徒、教職員が参加。 ・宗教研修や聖書の集いを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校行事である練成会のしめくくりのミサを教会で実施するなど、教会との結びつきを強く感じられるような地盤作りが進んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教会主催のイベントへの参加者は特定のクラブや生徒にとどまっている。さらに積極的に多くの参加が実現するよう、働きかけていきたい。 ・「聖書の集い」への参加者数が少ない。積極的な参加を実現する方法を検討する。 	

